

停戦の実際と展望

●国連事務総長グテレス、プーチン会談：人道回廊の設置の合意確認

- 一方で…NATO武器支援：個人携帯武器⇒重火器支援⇒この兵器の流れに対して、今後ロシアがどう空爆等の方法で阻止してゆくか？
- ⇒アメリカNATO諸国による戦闘継続の支援が進む中で、どうやって人道回廊の“保護”のため戦闘緩和の国際コンセンサスを作っていくか
- ⇒武器支援国は交戦国か？

● 停戦の形成とウクライナへの展望

- ⇨ 停戦の“取っ掛かり”のための“初期”目的の合意：人道回廊の増加と定着
- ⇨ 原発と周辺地域の非武装緩衝化（国連、IAEA？）

- 停戦ラインそして停戦の定着
- 国連：安保理か国連総会か
- ウクライナ提案のSecurity Guarantors有志連合か？
- 武装か非武装か？

- 先行事例：印パ戦争カシミール

●停戦監視への脅威、結果、失敗となったケース

- シリアのケース
- 問題点…
- 当事者の指揮命令系統の脆弱性
- 非正規軍事要員のプレゼンス：義勇兵、傭兵（双方、特にウクライナ側？）

- 教訓…
- 【停戦監視には犠牲がつきもの】というマインドセット
- 【紛争構造】が複雑化する前に

●停戦の形成・交渉を推進するロビー活動に向けて

- 世論形成【停戦は事実行為であり、戦争の結果とは無関係である】：帰属問題や民族自決権問題の合意条件や、**戦争犯罪**の取扱いは、むしろ戦闘行為が中断されてから時間をかけて議論されるべきものである。
-
- **特に戦争犯罪について**：「不処罰の文化Culture of Impunity」
- 停戦の実現ための人権問題の“**棚上げ**”
- 棚上げが長期化するケース：
- 棚上げを“定着”させたケース：
- 戦争犯罪の“恩赦”のケース：
- 「人権の復活」「傷ついた人権を修復する」準備